

# クローズアップ インタビュー



黄綬褒章受章者 **篠田源二氏** (70歳)

## 主な略歴

昭和29年4月1日 家業の黒瓦製造に従事  
昭和38年4月1日 (資)篠源赤瓦工場 代表取締役社長就任  
昭和48年5月1日 シノゲン瓦工業(株)代表取締役社長就任  
昭和50年4月30日～昭和62年4月29日 市議会議員  
昭和62年12月1日 市政功労表彰  
平成14年6月1日～現在 愛知県陶器瓦工業組合 理事  
平成17年5月1日 シノゲン瓦工業(株)代表取締役会長

篠田源二さんは、昭和29年に高校を卒業してすぐに家業の黒瓦製造に従事し、27歳で(資)篠源赤瓦工場代表取締役社長に就任されました。現在のシノゲン瓦工業(株)代表取締役会長に至るまで、52年間三州瓦業界はもとより、全国の粘土瓦工業会の発展に貢献されたことが評価され、「黄綬褒章」を受章されました。

## 受章の感想

瓦だけを作ってきた私がこのような名誉をいただいているのかと戸惑いました。身に余る光栄です。天皇陛下に拝謁をしたときは、その厳粛な雰囲気と陛下のお姿に、身の引き締まる想いがし、お言葉をいただき、感激しました。東京で、妻とともに写真を正式にとつたのは、結婚式以来です。で記念になると思います。

## 仕事についたきっかけ

物心がついたころから、粘土で遊んでいましたし、何となく親の仕事を継ぐことが当然だと思っていました。若い頃は、朝早く暗いうちから真っ黒になつて働きました。昭和3年に親がはじめた黒瓦製造を、通称ダルマ窯や赤瓦製造の倒燗式窯にし、さらに塩焼窯からトンネル窯に変えるなど、その時代にあつた瓦の製法を取り入れてきました。

## 瓦への思い

平板瓦が主流になりつつありますが、昔からの伝統のある和風の瓦づくりを今後も信念を持って行っていきたい。それには、誰にも負けない品質管理を徹底すること、瓦への愛情が必要だと思います。

## 苦労と喜び

若くして社長になつたため、従業員の生活を守ることを常に意識し、時代に乗り遅れないための決断をすることが重く感じたことがあります。また、環境面に力を入れ、瓦のリサイクル事業としてシヤモット工場の建設を愛知県陶器瓦工業組合の皆さまとともに取り組めたことは、今から思うと苦労であり喜びでもあります。

## 健康

今年70歳になりましたが、息子たちがしっかり会社を守ってくれているので、寝たきりにならないように健康に留意することに努め、好きなゴルフが仲間といつまでもブレイ出来るように今年から、禁煙をしています。

## これからの若い人に

昨今、自分だけが良ければ……という風潮が世間にあるようですが、協調性を重んじることが親や周囲の者が教えなければならぬ。若い人は健康でまっすぐな道を進んでいただきたい。